



## 「猫を保護してほしい」という相談

これまでの連載で、TNR や地域猫、大学猫活動といったノラ猫問題への取り組みを紹介したり、“人もねこも”一緒に支援しようとする取り組みを紹介したりしてきました。こういった取り組みをしても、私のもとに来る相談で一番多いのは「猫を保護してほしい」だと思います。理由はいくつかあります。例えば、「子猫がいたので保護してただけど、うちでは面倒みれないので、どうしよう？保護してもらえるところはない？」とか、「担当の高齢者の方の体調がすぐれないので、ペットを保護して里親に出してあげたい。どこか保護してくれるところ知らない？」とか、「近所でノラ猫に餌をあげているお年寄りがいて、増えて困るからノラ猫を保護してくれない？」といった具合です。そして多くのケースで最後に「保健所はかわいそうだからその前に相談しようと思って。」という脅し文句付き。見捨てることができず保護活動をしている人に対して、『保健所も視野に入れているよ』というメッセージは、脅迫に近い。もちろん、こういったケース以外に自分でできるだけ頑張るので、協力してほしいという「ぜひ、協力させて！」と言いたくなる人もいます。

## 保護活動に対するリアリティの欠如

ものすごく気軽に「保護してほしい」という難題を投げることができる背景には、実際に猫を保護して、ケアし、新しい飼い主に譲渡することは、具体的にどんなことなのか知らないということがあげられるのではないだろうかと思います。そこで、今回のマガジンでは、私の保護活動のパートナーである一時預かりボランティアの亀井さん家族にご協力いただいて、猫を保護して、新しい飼い主さんに譲渡するまでの金銭的、労力的負担も含め、美化せず、リアルをお伝えしたいと思います。ただ、保護活動の内容や経過はボランティアによって違いますし、保護する猫によっても大きく変わります。あくまで1例として読んでいただければ幸いです。

## ■ 一時預かりボランティアの活動紹介（亀井みさ子 文）

私は4人家族と猫1匹と暮らす家庭の主婦です。「一時預かり」「ミルクボランティア」という言葉がメディアで取り上げられはじめたものの、その実態はよく掴めず、「ちいさな子猫をただ可愛がるボランティア」と思っておられる方も多いのではないかと思います。この場をお借りして、保護した猫の例を挙げながら活動紹介をさせていただきたいと思います。

### ■ ケース1 シロ親子（母6歳、子1ヶ月）

もともと高齢者の単身世帯で飼育されていましたが、飼い主の健康上の理由から飼育が困難になり、新しい飼い主を探すことになりました。生後1ヶ月の赤ちゃん猫と授乳中の母猫シロが我が家にやってきたのは、真夏の猛暑日でした。



（お預かり2日目。警戒しているシロ親子）

預かりをはじめの準備として、最初に取り掛かるのは環境づくりです。感染症予防のために原則として先住猫（我が家の飼い猫）と預かり猫との接触は避け、双方が安心して健やかに過ごせるための別室を用意します。我が家の場合は、先住猫のくつろぎ場所であったリビングが、先住猫は立ち入り禁止の部屋となりました。シロの場合は特に、授乳中のデリケートな時期でもあったため、工夫を凝らしてリビングの隅の押入れ下段に涼しく暗く静かな生活環境を整えました。

毎日のお世話は給餌や掃除はもちろんですが、いちばん重要なのは子猫の体重測定です。体重が減っていたり母乳が足りていない場合は粉ミルクを与えます。授乳中の母猫には「たっぷりの栄養」を。…ここまでは多くの方が想像できる猫の飼い方だと思います。ところが、もともと飼育が困難な健康状態の方に、やむなくネグレクトに近い状態で飼われていたシロは、「足が弱って歩けない」「トイレで排便できない」「人に心を開かない」という深刻な状態になっており、このままでは新しい飼い主さんへの譲渡は難しいと感じました。

感情を持つ動物にとって「たっぶりの栄養」とは食事に限ったことではなく、家庭のぬくもりや安心感でもあるはずです。少しずつ、声を掛けたり撫でたりしながら、シロが心を開いてくれることを忍耐強く待ちます。真夏の暑い日に汗をかきながら床に落ちたウンチを拾っては床を消毒する、その繰り返しの日々の中、ふと不安がよぎります。「…この子、ほんまに飼い主さん見つかるの？」

心が折れかけた時に支えてくれるのは仲間です。貴重な休日に猫の様子を見に来てくれました。シロのケースでは、里親募集窓口担当の小池さんに加えて、依頼主でもある元の飼い主さんのご親族の女性が、食費や医療費などの経済的な面だけでなく、里親希望者との面談や譲渡の際の車の運転など、最後まで責任を持って一緒にやり遂げてくださいました。猫と離れ離れになった元の飼い主さんの気持ちや健康状態にも心を配りながら、ご自身が主体となって解決に向けて頑張ってくださいました。まさに、本稿冒頭で小池さんが記されている「ぜひ、協力させて！」と言いたくなる依頼者であり、私たちと信頼関係を築けたからこそ、私も依頼者の責任感に応えたい気持ちを保ちながらシロのお世話を引き受けることができました。

お預かりから3週間が過ぎ、シロ親子は少しずつ私たち家族に慣れはじめリラックスして過ごせるようになりました。



(お預かり26日目。リラックスするシロ親子)

歩行も排便もできるようになり、必要な医療も受けさせて準備万端となった頃に、里親希望者から「亡くなった愛猫とそっくりなので会ってみたい」と連絡が入りました。そして迎えたお見合い当日、里親希望者は亡き愛猫への想いを涙を流しながらお話され、私たち3人はただ耳を傾けて聴きました。里親希望者との面談を丁寧に行うことも私たちの活動のひとつ

つです。しっかりと喪に服して心を整理して、シロ親子を迎える気持ちの準備をしていただけのように思います。また、里親希望者が亡き愛猫との過去や悲嘆を勇気をだして手放すことができたのは、新しく家族となるシロ親子との出会いがあったからだとも感じました。数日後、トライアル（お試し飼育）のために里親希望者のお宅に伺うと、すっかり元気になっておられて安心しました。保護活動とは、ただ猫のためだけにあるのではなく、私たち人も猫との関わりから大切な何かを得ており、はからずも“人もねこも”一緒に支援する結果となりました。その後、無事に正式譲渡に至り、現在もシロ親子は里親様に愛されて家族で元気に仲良く暮らしています。

## ■ケース2 空ちゃん（生後8日目）

たとえ短期間であっても、命を預かるということは幸せな経験ばかりではありません。一緒に過ごした時間はたった5日間でしたが、心に残っている子猫がいます。生後8日目に我が家にやってきた「空ちゃん」です。まだ肌寒い4月の終わり頃、生後間もない空ちゃんは、ダンボール箱に入れられ遺棄されていたところを通りがかりの大学生に保護されました。そのまま大学生の家で7日間過ごしたあと、生後8日目に私の家に来ました。息を飲むような小ささに驚き体重を計ると、わずか70gしかありませんでした。70gというと鶏卵1個と同じ軽さです。本来であれば、猫の出生体重は約100gあり、生後8日目になると約2倍の200gになります。私の家に来るまでの7日間に何があったのか。どうして体重が減少しているのか？大学生とそこご家族から返ってきた言葉はこうでした。

「可愛いから連れて帰った」「でも大学を休んでまでお世話したいとは思わなかった」「飼いたいけれどお金は出したくない」「まさか死ぬとは思っていない」…。

これは、空ちゃんのケースだけではなく、多くの「猫好き」を自称する方から寄せられる相談に共通する言葉です。ここにも重大な「リアリティの欠如」がみられます。小さな身体が「動くぬいぐるみ」ではなく「生き物」であることをリアルに感じていただくために、空ちゃんの話に戻りたいと思います。

生き物である以上、死も覚悟してのお世話ですが、小さな身体が必死で生きようとする姿をみると、私が先に諦めることはできませんでした。とても小さな身体ですが、とても大きな声で泣くのです。母猫も突然いなくなった赤ちゃんを探して、おっぱいを腫らしながら泣いていることでしょう。お母さんを探して「ミーミー」と泣く声を聴くと、動物の遺棄がいかに残酷なことか、繁殖制限せず自然に産ませたほうが猫にとって幸せだという傍観者の声がいかに無責任なことか、痛恨の思いを抱えながらお世話にあたりました。



(生後10日目。ミルクを飲む空ちゃん)

母猫に成り代わってのお世話は、「ミルクボランティア」という可愛いネーミングとは名ばかりの不眠不休。低体温を防ぐために保育器代わりとなる箱を用意して、湯たんぽを温めて28度を保てる寝床を作ります。生き延びるためには、とにかく体重を増やして体力をつけなければなりません。長時間眠りがちな子猫を起こして、まずは湿らせたコットンで肛門刺激をして排尿排便をさせます。それから温めておいたミルクをシリンジで一滴ずつ舌の上に落とします。優しく口を広げて一滴落とし、飲み込むのを待ち、また口を広げて一滴…。そして体重を計り記録します。

小池さん お頼り フジ  
4/19生まれ 生後1週間  
動物医療センター 菊木 24h

日付	A	B	C	D	E
1	2017年4月19日	体重	食事(日時間)	排便	備考
2	木 4月20日				保護 (1.19)
3	金 4月21日				
4	土 4月22日	90g			受診?
5	日 4月23日				
6	月 4月24日				
7	火 4月25日				
8	水 4月26日	71g	7. 11. 13. 16. 19. 22 1. 3. 5	小正正 大 一 小正正	液体20g 10ml/1日 → 粉ミルクに変え (1.19)
9	木 4月27日	72g	8. 11. 13. 15. 17. 19. 21. 23 1. 4. 6	小正正一 大 一 小正正	肛門刺激 (体重増強) 70ml/1日
10	金 4月28日	76g	8. 10. 12. 14. 17. 20. 23 1. 4. 6	小正正 大 一 小正正	粉ミルク 10ml/1日
11	土 4月29日	76g	9. 10. 12. 14. 17. 20. 23 1. 4. 6	小正正 大 一 小正正	粉ミルク 10ml/1日 11AM 入乳
12	日 4月30日	74g	7.	小正正 大 一 小正正	11AM 入乳
13	月 5月1日				形に授乳・背中刺激・点滴 AM 6:30
14	火 5月2日				死
15	水 5月3日				

(空ちゃん健康記録)

授乳は2時間おき、とよく言いますが、人工乳の場合は作業に1時間近くかかるため、お世話をする人の睡眠時間は最長1時間になります。この時も、私の睡眠確保のために小池さ

んが休日に来てくれて、日中はお世話を交代してもらい、その間私はまとめて睡眠をとりました。私ひとりでは、とても乗り越えられなかったと思います。

生後12日目の朝、空ちゃんは哺乳力が弱くなり、最期の1日は入院してカテーテルによる人工給餌と点滴による栄養補給をしましたが、健闘むなしく、そのまま病院で息を引きとりました。保護した大学生には、空ちゃんに接する私たちの緊迫した様子を毎日報告していたこともあり、しだいに大学生の目に空ちゃんの生命がリアルに映るようになっていったように思います。亡骸となった空ちゃんを家族として迎え入れたいとお申し出を受け、空ちゃんは大学生のご実家のお庭で安らかに眠っています。

さて、猫を保護した場合、現在の日本の法律では、生きている猫は「落とし物」として警察に届け出をして、死んでいる猫は「ゴミ」として美化センターで処分されます。空ちゃんの場合は、たった14日間であっても「命として認識された」貴重な時間がありました。しかしながら、保護の依頼は絶えずあり、とても対応できる量ではありません。しかも残念ながらそのほとんどが、こちらへ丸投げする無責任な依頼です。生き物を「モノではなく命として認識する社会」になるように、保護活動と並行して啓発活動にも力をそそいで参りたいと思います。(亀井みさ子)

## 新しい飼い主を探す

上記の活動紹介を書いた亀井さんとは、かれこれ5年くらい一緒に活動している信頼できるパートナーです。一時預かりボランティアの仕事は上記の内容のほかに、餌代や獣医療費といったかかった経費の帳簿作成や、通院、新しい飼い主を探すための写真撮影など盛りだくさんです。もちろん、ボランティアなので、給料は一切なく、餌代や医療費といった実費支払いのみ。場所と労働力を無償提供していただいています。

一時預かりボランティアが猫を保護してくれている間に、私は新しい飼い主を探します。ペットの飼い主募集専用サイトを利用することが多いです。インターネット上で、誰でもみることができるため、声がかかる確率は高くなりますが、全く知らない人から連絡がくるため、本当に猫を飼うことに適している信頼できる人なのか見極めることがとても重要です。残念なことに、善意の飼い主希望者のふりをした動物虐待マニアも存在し、悪気はないものの、命を飼う責任感が乏しく、譲渡をうけてからすぐに猫を逃がしてしまいそうな人も多い現状です。

### ●面会

まず、サイトを通して連絡してくださった方と電話やメールでやり取りをします。猫と一緒に住むことになる家族構成、皆の合意があるのか、他にペットはいるのかなど、飼育環境

を教えてもらったり、飼い主希望者さんからの質問に答えたりします。この段階で、お断りすることもされることもあります。情報を隠してとりつくろっても後々悲惨なことになるだけなので、猫の健康状態や経緯など正直にお伝えします。その上で、話を進めていく場合は、一時預かりボランティアのお家に面会にきてもらいます。希望者さんには、なるべく家族全員で来てもらいます。保護主側も、私と、一時預かりボランティア、保護主が別にいる場合は、保護主も入れて3名で希望者さんを迎えます。面会を終え、希望者さんが帰ったら、保護主側で相談をします。関わっている全員が、譲渡に賛成した場合のみ、トライアルへと進むことになります。



ここまでの手順を簡単に図式化するとこんな感じです。そこそこ手間と時間がかかることを感じていただけたでしょうか。

### ●トライアル

面会を経た次のステップは、「トライアル」です。トライアルは、ホームステイのようなもので、希望者さんに実際に保護猫と暮らしてもらい、家族や先住ペットとの相性をじっくり見てもらう期間です。トライアルの際は、実際に飼い主希望者さんのお宅に訪問し、トライアル期間の保護猫の所有権は保護主側にあるとする誓約書を交わします。希望者にとっては、家族に猫アレルギーが出ないか、先住猫との相性は大丈夫か、実際に見極めることができるというメリットがあります。保護主側としては、本当に猫を大切にしてくれるのか見極めることができるというメリットがあります。トライアル期間は、先住猫がいない場合は、1週間程度、先住猫がいる場合は1ヵ月～2か月に設定することが多いです。

### ●譲渡

トライアル期間を終えたら、再度希望者さんのお家を訪問します。そして、保護猫の様子や飼い主希望者さんとの関係を見させてもらいます。保護猫が全然なついていなかったり、状態が悪くなっていたり、トライアル時はきれいだった家が荒れていたりする場合は、トライアル失敗です。保護猫はすみやかに引き上げます。特に問題がなく、希望者さんと保護主側の双方が正式譲渡に合意したら、晴れて正式譲渡証を交わし、所有権の移行をします。



以上が「保護してほしい」と依頼されてから任務を完了するまでの流れです。最低2回は希望者さんのお宅を訪問しますし、トライアル期間中に相談を希望されれば何度も訪問します。新しい飼い主が決まりやすい子猫だとしても、短くても1ヵ月、長ければ半年以上かかることもあります。成猫なら何年もかかったり、生涯飼い主希望者が現れず、保健所を免れたとしても保護シェルターの中で一生を終えることもあります。ほとんどの保護シェル

ターは、一時保護場所としては有効でも、生涯の居場所としては幸せとはいえません。殺されないだけマシ、というのはあまりにも想像力が乏しいと思います。

無事、正式譲渡に至ったとしても飼い主さんとの関係は切れるわけではないので、やむをえない事情が発生し、正式譲渡から半年後に引き取りなおすことになることだってある。1度関わった猫とは一生責任の一旦を担い続けることになるわけです。

## ●費用

保護して新しい飼い主さんに巡り合うまでの期間にもよりますが、医療費（ノミダニ駆除や血液検査費）や食費、猫トイレの砂代、動物病院や飼い主希望者さんのお家までの交通費入れると、保護猫がとても健康で、スムーズに事が運んだとしても1匹あたり2万円はかかります。おなかの中に回虫がいたり、体調がすぐれない場合や入院が必要な場合はそれ以上、数日入院なんてことになればあっという間に5万円やそれ以上になることもあります。

保護依頼の場合は、依頼者さんに実費の負担をお願いしています。依頼主が子どもで、親の理解がゼロの時や、学校に入り込んでしまった猫のように、金銭的な負担をできる人がいない場合は、もちろん自腹です。新しい飼い主さんにワクチン接種費だけ負担してもらうこともあります。とはいえ、金銭的にも時間的にも、できる限界があります。

## まとめ

保護活動は、とてもやりがいのある活動です。ポロボロの状態に保護した猫が、ピカピカになって新しいお家で暮らしている様子を写真などで見ると、何とも言えない幸せな気持ちになります。生きたそうめんみたいな回虫が猫のうんちからうようよ出ている光景、下痢から元気なかたいうんちに変った喜び、怯えていた状態から、甘えてくれるようになった瞬間の感動。面白おかしく美談にまとめようと思えば、何ページで書ける気がします。でも、そういった明るい側面だけでなく、沢山の時間とお金と手間がかかる責任の重い活動でもあるということを今回のマガジンで知ってもらえたら嬉しいです。「じゃあ見捨てろってこと？」ではなく、大変なことだからこそ、誰かに丸投げではなく、一人一人が自分にできることを考えて取り組もうとする姿勢をもってもらえたら、より、沢山の命を救うことができるはずだと思っています。最後まで読んでくださってありがとうございます！

## おわり



小池英梨子

NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

「ねこから目線。」としてフリーでも活動中。